

事業報告書

第45期

(自)令和4年4月1日

(至)令和5年3月31日

社会福祉法人 秀幸福社会
庄栄エルダーセンター
大阪府茨木市庄二丁目7-38

社会福祉法人 秀幸福社会

令和4年度 事業報告書 要約

<入所・ショート>

令和4年度はコロナ第8波の折に施設内においてクラスターが発生。その後ショートステイ入所時の抗原検査の開始やショート、入所のフロアを分けるなど新しい感染拡大予防を行いました。令和4年度夜勤可能な職員の退職者が5名あり、その後入職した職員で夜勤可能な職員は2名とまだ不足した状況にあります。

<庄栄エルダー診療所>

コロナ第8波時複数名の看護職員が同時期にコロナ感染で出勤が出来なくなる事態となりました。感染症だけでなく、災害時も含め、施設として、人員、業務など緊急時医療対応体制の準備の重要性を感じました。

<庄栄エルダーヘルプステーション>

高齢者サービスは、9月10月には、利用率を少し盛り返したが、その後継続維持することは難しかった。障害サービスは、順調に以前と同じ様なサービス時間や収入に戻って来ている。ほのほのネクスト、ケアパレットは順調に利用し、ペーパーレスも進んでいます。求人活動にて、初任者研修修了者のヘルパー1名、介護福祉士が1名が登録に繋がる。

<庄栄エルダーデイサービス・認知症対応型デイサービス>

令和4年度、収支面において、8月に新型コロナウイルスでのクラスターにより、6日間営業自粛となり、運営的にも大きな影響があった。それ以降、稼働率の向上も困難な状態が続き、【待ちの状態】を取ってしまった事が要因で、通所介護と認知症対応型共に前年比を下回る数字となってしまった。

<ケアプランセンター>

令和4年度、新たな収穫としては施設紹介業者との関係作りを行うことで茨木市内で2箇所新設オープンした住宅型有料老人ホームへの入居者の新規プランを頂き、今後も2箇所の住宅型有料老人ホームの入居者のプランを引き受ける事となる。

<栄養管理課>

令和4年度は、年度途中での制度変更や安価で事業ルールに縛られない民間の配食業者の増加もあり、前年度を下回る結果となった。しかし、デイサービス持ち帰りや毎日利用者が定着し、実費の利用率は増加した。令和5年度からは現在約半数を占める食の自立支援サービスの新規受け入れが停止となり、更なる食数の減少が予想されるが、実費での利用を推進するため、付加価値のあるお弁当を目指し、メニューの充実だけでなく関係各所との連携を強化し、多様化する要望に対応出来るよう務める。

<三島・庄栄地域包括支援センター>

東保健福祉センター内に開設されて2年目となり、感染予防を心がけ、周知・啓発活動を積極的に行った。その結果もあり新規の方の来所相談、電話相談が増えた(73名増えて363名)。そして、保健福祉センターの周知のためのイベントを他職種で連携して行う事ができ、340名の方に参加してもらう事が出来た。

<東・白川 地域包括支援センター>

東、白川の各地区で、地域づくりの会議が始まり、地域のネットワークが広がっています。コロナにより休止していた高齢者サロン等の再開や地域カフェが増加し、参加や協力依頼も増える。「エルダーさんに相談したらいい」と、地域住民や民生委員等から相談を頂いています。

<太田・西河原地域包括支援センター>

公民会、自治会総会、サロンなどで包括の役割や介護保険の説明会を出張講座として6回実施し、8月と2月には「太田・西河原レター」という当包括オリジナルの広報紙を各1000部発行・自治会等へ配布。独居高齢者宅へのアウトリーチ訪問も120件。これらの活動の成果から、地域住民や民生委員、地区福祉委員の方々にも認知され、相談件数(450件)や来所での相談件数(50件)も増加しています。

<地域密着型認知症対応型デイサービスセンター未来>

令和4年2月に17人のクラスターが発生。その後罹患された利用者様の認知症状の進行や体調が戻らないご利用者様への支援を行いながら、営業に力を入れ、令和4年11月にはクラスターが発生する前の状態に立て直すことが出来た。食材費・仕入れ費の上昇の影響につき委託業者からの委託管理費の値上げ通達があった為、8月より昼食代を500円より650円に変更を行った。10月より介護ベースアップ加算等支援2.3%を開始。

<茨木市コミュニティソーシャルワーカー配置事業>

令和4年度の後半は、新型コロナウイルス感染症も落ち着きを見せ、地域活動も平常に戻りつつある。これまで制限されていた活動を再開するにあたり、地域の方々や関係機関、そして新たな戦力となる立命館大学、追手門学院大学、追手門学院中高等部の学生も加わり、コロナ禍以前よりもパワーアップして再スタートが出来た。

居住支援法人としての活動は、低所得者や生活保護の住宅扶助範囲に該当する物件が年々少なくなり、選定に苦慮している。新規に協力不動産、地域の大家の開拓が急務である。

<福井多世代交流センター>

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、カラオケ等の高唱を伴う事業の人数制限やマスク等の飛散防止対策を余儀なくされた。当センターの管理・運営に当たっては、2月からようやく人数制限も解除されたが、引き続き徹底した感染拡大防止対策を行いながら事業を実施することにより、利用者数や貸部屋利用などは前年度に比較し増加となる。

令和4年度 特別養護老人ホーム・ショートステイ事業報告

○R4 年度実績報告

<特別養護老人ホーム>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
目標人数(名)	1,680	1,736	1,680	1,736	1,736	1,680	1,736	1,680	1,736	1,736	1,568	1,736	20,440
利用人数(名)	1,578	1,635	1,628	1,660	1,693	1,614	1,612	1,637	1,670	1,671	1,430	1,609	19,437
空き日数(日)	102	101	52	76	43	66	124	43	66	65	138	127	1,003
前年比(%)	97.5	95.3	101.8	108.1	107.4	109.4	105.4	107.1	101.8	102	95.7	99.3	102.7
目標比(%)	93.9	94.2	96.9	95.6	97.5	96.1	92.9	97.4	96.2	96.3	91.2	92.7	95.1

利用人数 前年度比較 513名増

年度間退所者数 - 24名 前年度比較 8名増

<ショートステイ>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
目標人数(名)	600	620	600	620	620	600	620	600	620	620	560	620	7,300
利用人数(名)	548	652	586	652	402	520	569	515	523	501	493	562	6,523
前年比(%)	78.4	100	93.9	93.1	54.7	79.6	75.6	70.7	72.2	69.6	114.9	161	84
目標比(%)	91.3	105.2	97.7	108.6	64.7	86.7	91.8	85.8	84.4	80.8	85	90.6	89.1

利用人数 前年度比較 1,238名減

年度間新規利用者数 - 127名 前年度比較 27名増

○R4 年度特別養護老人ホーム・ショートステイ共通報告

中長期計画「職員の育成」に基づき、運営

・介護職員の年度間 入退職状況

入職者(常勤職員) … 5名 (うち2名が夜勤可能)

(非常勤職員) … 9名

退職者(常勤職員) … 7名 (うち5名が夜勤可能)

(非常勤職員) … 4名

・相談業務職員(常勤職員)

入退職ともに1名

人材紹介会社からの紹介による入職者が多く、紹介料が多く発生しているにも関わらず、退職者計12名のうち6名が入職1年未満の者であった。

夜勤勤務可能な職員が増えず、相談職が介護業務に就いている。

派遣介護職1名(土日、日勤のみの契約)継続中。

・人材育成について

内部研修 … 事業計画通りの内容で毎月学習会を実施（コロナ陽性者、濃厚接触者発生時には資料配布のみ）。受講必須とし、各自レポートを提出。

外部研修 … 職員数の減少、感染症対応のため受講できず。
研修計画に沿った受講がかなわず、個人の知識、技術習得度状況に合わせた資料等の提供が難しく、スキルアップに差が出やすい状況が続いている。

・新型コロナウイルス感染症について

陽性となった利用者の施設内療養、濃厚接触者経過観察のためショートステイ利用者の受け入れを計4回（各期間は2週間～1ヶ月半程度）、計424床ストップせざるを得なかった。

これまで各フロアに設定していたショートステイベッドを、11月～4Fへ変更し、4Fをショートステイメインのフロアとして営業を開始している。11月～現時点まで2、3F特養フロア利用者の感染者はなし。4Fショートステイメインのフロアは、濃厚接触者経過観察のため5日間受け入れを停止したが、その後陽性者は出ず、受け入れを再開できた。

・感染予防策として、

- ・職員は出勤前、出勤時に検温を実施
- ・職員はマスクを常時着用、利用者様の身体介助に入る際にはシールドも着用
- ・勤務中は消毒用アルコールを常時携帯、利用者身体介助終了ごとに消毒実施
- ・各フロア一次亜塩素酸加湿器を連続運転
- ・定時に共用部分のアルコール消毒、定期的な換気を実施
- ・大阪府施策として、職員出勤前抗原検査を週2回実施

OR4 年度特別養護老人ホーム事業報告

・利用者平均要介護度 4.4 （男性 4.1 女性 4.4） 前年度と変化なし

・空床減への対応

- ・長期入院が予測される場合には、一旦退所手続きを取っていただき、新たに選考順位上位者から入所していただく
- ・急な退所者が出ても、早期に次の利用者に入所していただくよう、その前提でロングステイ利用者を獲得する
- ・退院時にはコロナウイルス流行の点から、個室対応となるため、ショートステイ利用者の部屋使用状況を確認の上、受け入れ日時を決定する

前年度に引き続き上記対応を徹底し、前年度比較513床の空床減。今後も対応を継続する。

- ・利用者体調管理、感染症予防について
 - ・利用者様に発熱、咳等の症状がみられるときには、原則個室で対応、状態に応じて抗原検査を実施
 - ・個室対応中職員はマスクとシールドに加え、専用ディスポガウン、グローブを装着
 - ・退院後の受け入れについては、無症状でも3日間個室で感染症発生時に準じた対応を実施

OR4 年度ショートステイ事業報告

- ・利用者平均要介護度 3.0 (男性 3.0 女性 2.9) 前年度比較 -0.2
- ・11月以降の稼働状況について

先述感染症(クラスター予防)対策のため、4Fをショートステイメインのフロアとして営業しており、感染症関係での大幅なショートステイ受け入れ停止は無かった。

しかし、介護職員数減により、相談職の職員が介護業務に就くことが格段に増加、営業活動が全く行えていない状況や、利用者様の体調不良によるキャンセルも多く、ロングステイ者の確保が上手くいかず、稼働率が上がらなかった。
- ・緊急利用の受け入れ

前年度まで緊急ショートを積極的に受け入れ続けたことにより、依頼件数が増加。条件がそろえば緊急加算を算定。

ある程度長期間の利用になることが多く、キャンセルされたベッドや、特養入院ベッドの大きな稼働力となった。
- ・ロングステイ利用者確保の継続

特養空床対策、入退所チェック業務の負担を軽減し、利用者へのケアを充実させるためにも、常時5名程度のロングステイ利用者確保を目指したが、ロングステイ者の体調不良も続き、上手くいかなかった。

ステイ期間中に居室が変更になることもあるとして受け入れすることで、他利用者受け入れ時の居室調整に柔軟性が出て、依頼期間に応えやすくなった。
- ・ショートステイ入所時の感染症予防策
 - ・利用前日に本人の体調の他、家族の体調や生活状況を電話で確認
 - ・送迎車のアルコール消毒
 - ・当日自宅へ迎えに上がった際に検温を実施
 - ・到着時に再度検温、抗原検査を実施。その後利用フロアにて体調チェック(バイタルサイン測定、風邪症状等確認)

R4 年度 診療室事業報告

新型コロナウイルス感染症の発生から3年がたった。R5年5月から感染症分類は2類から5類となるが、感染拡大予防を引き続き行える施設としての新しいルール作りに役立つようR4年度の医療体制をふり返る。

<利用者動向>

R4年度は利用者入所19名退所21名あった。

コロナで入院、退所された方は2名で、他の方については重度の疾患が発見され、すぐに終末期を迎える利用者や入院後そのまま死亡退所の利用者も複数みられた。

特養入所者、ショートステイ利用者共に酸素投与や尿カテーテル、ストーマ管理、インスリン管理、褥瘡管理など医療依存度の高い利用者が多くなってきている。安全なケアができるよう、また異常の早期発見ができるよう、医療と介護との連携、情報共有をはかっていきたい。

<コロナについて>

R4年度は8月の第7波時にデイ、入所でクラスターが発生、12月の第8波では事務所職員、介護職員の感染があった。

第7波では看護師3名がほぼ同時期に感染したことで通常の医療体制をとることが困難となった。大阪府へ応援体制の依頼も行ったが200か所以上の施設で同様の状態であるとのことで、看護師の応援派遣は無理となり、勤務に就ける看護師で業務継続を行う事になった。今回の経験を活かし、あらためてコロナや災害発生時の緊急時マニュアルの整備を行っていきたい。

コロナワクチンについては、利用者職員接種を5回目接種まで終了。ワクチン接種にあたっては、使用するワクチンの種類、量、保管方法、期限、使用期限、接種間隔、注文方法など管理が難しい面も多く、今後も、安全に接種できるよう管理方法を考えていきたい

また、職員のワクチン接種後の熱発や体調の変化で就業が困難になる場合やインフルエンザ予防接種の時期と重なる事が予想されることから、スムーズな接種にむけてのスケジュール調整を早目におこなっていく必要がある。

コロナ検査については、PCR検査に代わり、大阪府による高齢者、障害者施設職員の3日に1度の定期抗原検査を4月から実施。R5年度も移行期間中は現在のところ継続予定となっている。有効な感染拡大予防として活用していきたい。

入所利用者の検査については症状がみられた場合やクラスター発生時に、管理医師と連携し、抗原検査、必要時はPCR検査依頼にて診断を行った。また、外部からの感染を防止するため、ショートステイ利用者対象に入所時抗原検査を8月26日より実施。現在までに2名の陽性判定があった。

また退院後、直接ショート利用となった利用者の中に抗原検査では陽性がひろえなかった事例もあり、今後も退院者に関しては3日間の個室管理にて感染予防対策をおこなっていく。

11月より4階がショートステイ利用者のフロア、2.3階が特養入所者のフロアとなった。

11月以降ショート利用者のコロナ陽性は単発ではみられたものの、クラスターになることはなく、対応できており、抗原検査とあわせて、感染対策としては一定の効果があつたとみられる。しかし、ショートステイでは1度に複数名が入れ替わることも多く、医療情報や医療処置、ADLについて、迅速に把握、対応することが難しくなっている。そういった面では情報共有や職員の配置、業務内容について、検討が必要と思われる。

<働きやすい職場環境づくりについて>

職員本人だけでなく、家族の体調不良などで急な休みがはいる事もあり、出勤者への業務負担が増えてしまうことも多かった。そのような中でも、コミュニケーションをとりながら、早目の勤務調整や準備を行い、協力体制をとることができた。

7月より介護業務支援ソフトがフロアに導入となっており、看護記録に関してはソフトを活用している。今後、国として、医療情報システムのオンライン化が進んでいく予定だが、まだ、連動できていない部分が多い。効率よい、医療、介護業務の情報共有のシステム化を進め、働きやすい環境につなげていきたい。

○ R4年度利用者動向

	R4	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5	1月	2月	3月	合計
入所		4/5高野	5/13小林 5/15三軒 5/16藤田 5/29藤川	6/23吉田		8/3宮本 8/11三田尻 8/2松崎	9/9阿尾 9/15植田		11/9浜崎	12/16富永	1/25前田		2/11鴨 2/11永井 2/19小泉 2/22中内	3/17丸山	19名
退所		4/5大藪	5/7大西 5/29石賀 5/9轟木 5/14菱本	6/15 杉野 6/29奥野	7/29 小林 7/23 岩田	8/4吉川	9/11新志 9/3中村フサ子		11/25坂田 11/30大島	12/26山本	1/28高木 1/28馬場 1/30川邊		2/8藤川トシ子	3/4守本 3/8村上	21名
入院	10	大藪3/10~4/10 奥野3/24~4/14 中山3/30~4/11 轟木4/4 坂田4/9~4/21 菱本4/14 大西4/9	奥野5/27 ↔ 6/29 5/9 5/14 5/7 芝5/11~5/20 杉野5/11~5/20 5/20 ↔ 6/15 石賀5/27~5/29 5/12~22 吉見5/17 ↔ 6/1 藤田5/21~5/31		7/18~28 久保7/6~7/9 小林7/11~7/29 吉川7/6 ↔ 8/4	檜枝 8/13~2 宮原8/15~25 藤田8/16~26 8/4 三軒8/29 ↔ 9/9 中井 8/27	新志9/2~11 官原9/8~15 中村9/2~3	森田10/3~18 小野10/4 ↔ 森田10/4~19 大島10/7~25 松浦10/17~28		山本12/13~26 馬場12/29 ↔ 1/28		高木11/14 森常11/14~19 ↔ 1/28	村上2/4 ↔ 3/8 藤川ト2/7~8 中山2/11 ↔ 鴨2/18~ ↔ 3/18 林2/22 ↔ 3/1	森田ス3/26 ↔	

他科 受診	内科	9	7	7	5	5	7	2	5	3	3	4	3	60
	整形	2	1	3	1	0	2	0	1	4	1	1	5	21
	外科	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5
	皮膚科	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	2	5	11
	脳外	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3
	眼科	1	0	2	0	0	2	1	1	1	1	0	1	10
	精神科	2	2	4	2	2	3	3	6	4	2	3	6	39
	泌尿器	7	5	4	9	0	5	3	5	4	4	3	2	51
	婦人科	0	0	0	1	3	0	1	0	1	0	0	0	6
	救急外来	0	1	0	5	3	1	5	2	1	4	6	3	31
	その他	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	6
	合計	24	20	22	23	14	23	15	21	20	16	20	25	243
	ショート	3	3	3	3	3	3	5	2	6	4	3	5	43

入院日数	118	104	29	69	41	62	114	53	48	60	91	89	883
------	-----	-----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	-----

年間業務

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所者	採血 心疾患者 ECG (毎月)			コロナワクチン接種	コロナワクチン接種	結核検診 胸部レントゲン (9/8)		インフルエンザワクチン接種	コロナワクチン接種	コロナワクチン接種	コロナワクチン接種	
職員	管理栄養士検便 ヘルパー検便			職員検診 (X-P) ECG 検尿 問診 検診 検便 採血) (7/12.14)			インフルエンザワクチン接種	インフルエンザワクチン接種	インフルエンザワクチン接種 コロナワクチン接種	夜勤従事者検診 (検尿/問診) 1/31 コロナワクチン接種	コロナワクチン接種	
診療所	第2木曜ミーティング 学習会・研修会 (定期・随時) 医療物品管理											
備考	腰痛体操 風呂水塩素 脱衣室温度 チェック 3回/日 医療廃棄物 処理報告 (4/30) 浴槽消毒 4回/月		医療廃棄物 処理申請6/28	風呂水検査 (レジオネラ菌 大腸菌・ 過マンガン酸k) 7/11						風呂水検査 (レジオネラ菌 大腸菌・ 過マンガン酸k) 1/11 酸素申請1/19		医療廃棄物 申請3/21

・地域生活相談活動

入所者・職員コロナワクチン接種 3. 4. 5回目実施
 コロナ職員定期抗原検査 4月15日より実施

栄養管理課における事業報告書

・配食実績報告

配食実績表（令和4年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績	975食	975食	959食	968食	1080食	995食
前年比	91.2%	87.1%	85.8%	78.4%	100.2%	89.6%
目標比	83.3%	83.3%	82.0%	82.7%	88.9%	85.0%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実績	947食	962食	947食	891食	928食	1033食
前年比	88.9%	89.6%	87.4%	89.5%	99.4%	95.3%
目標比	80.9%	82.2%	77.9%	82.5%	85.9%	85.0%

令和4年度全体実績として、前年度比90.2%、目標比83.3%となり、前年度を下回る結果となった。1年間の合計食数は11660食、月平均食数は972食で、ひと月当たり昨年度よりも108食減少した。年度途中での制度変更に加え、民間の配食サービス会社の増加もあり厳しい結果となったが、事業所訪問だけでなく担当者会議に出席することでケアマネージャー様と顔の見える関係づくりを心がけた。

《実費負担食数の推移》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実費負担食数	392食	396食	424食	419食	484食	426食
総数に対する割合	40.2%	40.6%	44.6%	43.3%	44.8%	42.8%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実費負担食数	406食	420食	428食	421食	449食	476食
総数に対する割合	42.8%	43.6%	45.2%	47.2%	48.8%	46.1%

総食数は減少したが実費利用数の割合は年々増加しており、前年と比較して3.5ポイント増加(8.6%増)した。デイサービス利用時の持ち帰りサービスが定着しつつあること、単発的な利用・毎日利用の案内強化により、新規利用増に繋げることができた。

《業務内容》

- ・ 安否確認
- ・ 臨時利用の受け入れ（自費負担）
- ・ 行事食、行事カードの実施
- ・ 個別対応の実施（ご飯の硬さ・量、嗜好の把握、禁止食、お届け時間など）
- ・ リクエストカードの配布及び実施
- ・ 試食の実施（無料）
- ・ 他事業所へ営業
- ・ 献立表の配布
- ・ デイサービスご利用者様へ配食案内を記載した給食だよりの配布
- ・ 栄養改善型配食新規利用者に対するサービス担当者会議への出席

《 課題 》

令和6年度の食の自立支援サービス事業廃止が決定し、令和5年度からは新規受け入れが停止となった。これにより要介護者の配食新規利用は実費のみとなり、金銭的負担感が増すことになる。

◆付加価値のあるお弁当作りを意識する

・各所の連携で安心感のあるお弁当に

- 1、毎月各事業所を訪問したり、栄養改善型配食の利用開始前にはサービス担当者会議に出席することでご利用者様に関する情報を共有し、ケアマネージャー様との信頼関係を強固なものにする
- 2、地域ケア会議に出席し、包括や傍聴のケアマネージャー様に案内チラシを配布し、顔の見える関係づくりを心がけ、要支援者の新規利用へつなげる
- 3、新規の利用開始時には、栄養士も同行し利用者様の状態や生活状況などを把握する
- 4、その時々々の状態にあった食事内容を提案し、状態変化による利用中止がないように努める

・お弁当の内容充実のために

- 1、行事食を取り入れるなど飽きのこない弁当作りを行う
- 2、定期的に要望を聞き取る機会を設けてすぐに対応できるよう努める
- 3、リクエスト頂いた料理を献立に反映していく

・その他の新規利用者獲得のために

- 1、ひだまり、ホームページに配食サービス案内や写真、献立表などを掲載し、具体的な配食サービス内容がみてわかるようにする
- 3、お一人様1回のみ無料で試食を実施し最初の利用のハードルを下げる
- 4、デイサービス(給食だより)やショートステイ(チラシ作成)利用者に持ち帰りサービスの案内を行う

《 まとめ 》

令和4年度の全体実績は前年度比90.2%、目標比83.3%と、前年度を下回る結果となった。要因として、7月の配食制度変更により要支援者の利用手続きが煩雑になったことでケアマネージャー様にとって利用しにくいものになったこと、また、要介護者では利用の要件や制約が多いことから安価でルールにしばられない民間の配食業者へ利用者が流れたことが考えられ、新規利用者獲得に苦戦した。しかし、自費サービスの案内が定着してきたことで、デイ持ち帰りや毎日利用が増加し、実費利用割合は増えた。

利用中止者の停止の理由は、施設入所や、骨折による入院を機に在宅復帰が困難になったケースが多く、お弁当自体への不満はほとんどなかったため、内容や対応には満足して頂けていると推察している。

今後は、要介護者へは実費での利用をすすめる必要があり、値段が高くても利用して頂ける付加価値のあるお弁当作りが急務となる。そのためにも、お弁当内容の充実はもちろん、利用者様やご家族様、ケアマネージャー様との連携を密にし、管理栄養士が窓口であることを強みに多様化するご要望に対応できるよう努める。

令和4年度決算期
 茨木市コミュニティソーシャルワーカー配置事業
 社会貢献事業（生活困窮者レスキュー事業）
 住宅確保要配慮者居住支援事業
 事業報告

◆総論

令和4年度は昨年度に引き続き住宅確保要配慮者居住支援法人事業への対応も同時に行い、その対象者のニーズに迅速に応えるべく、関係機関、関係者との連携の構築に努めた。

新型コロナウイルス感染症もようやく落ち着きを見せ、地域活動を再開すべく地域の方々と「更なる連携強化」を合言葉に打ち合わせを重ね、また立命館大学や追手門学院大学、追手門学院中高等部など新たな息吹も加えつつ、地域の見守り活動などを積極的に行った。

◆具体的な活動

東小学校、白川小学校が担当校区であり、それぞれの地域で毎月1回開催される健康福祉セーフティネット会議。コロナ禍ではあったが、感染症対策を十分に行い予定通り開催した。

・健康福祉セーフティネット（いきいきネット）会議開催状況

（開催回数）

東小学校区：12回 白川小学校区：11回

* 8月の白川地区はお盆期間中の為、当初より予定なし。

（参加人数）

東小学校区：延べ252名 白川小学校区：延べ341名

・電話、訪問、来所等による相談件数

・月別相談件数（延べ）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	23	31	35	22	23	26	22	27	18	19	26	28	300

・相談対象者内訳（延べ）

高齢者	障害者	子育て世代	その他	計
235	22	13	30	300

◆茨木地区協力雇用主会の取り組みへの参画

コロナ禍の影響により中止していた浪速少年院院生全体への就労支援講座「魅力発見講座」、出院準備生への「魅力発見NEXT講座」を昨年10月より再開。また庄栄エルダーセンターでの月1回の車椅子等の清掃を行う「社会奉仕活動」も同時期に再開し、毎回2～3名の院生が一生懸命に活動し、利用者様から「ありがとう」の賛辞が送られ、院生が大変喜ぶ光景が毎回あり、彼らの更生へのきっかけになればと願っている。

◆茨木市CSW協議会としての取り組み

マイノリティー、多様性などのワードが飛び交う現代において、CSW協議会としてもその内容を十分理解していくことを目的に昨年12月に「みんなの理想の避難所を考える～多様な価値観を知ることによって災害対策を考えよう～」と題して、市民や関係機関など158名が参加して福祉活動交流会を開催した。

◆社会貢献（レスキュー）事業

今年度は以下の5件の該当ケースがあった。

- ・家賃滞納で強制退居をせざるを得ない方への住居確保及び生活必需品等の購入等。（3件）
- ・生活困窮状態にある要支援高齢者宅へのエアコンの設置。
- ・夫からの身体的DV被害者の転居に伴う初期費用等の支援。

◆住宅確保要配慮者居住支援事業

令和5年3月末日までの相談件数は、12件。

うち住宅確保までに至ったのが4件。

以上

（報告書要約版）

令和4年度の後半は、新型コロナウイルス感染症も落ち着きを見せ、地域活動も平常に戻りつつある。これまで制限されていた活動を再開するにあたり、地域の方々や関係機関、そして新たな戦力となる立命館大学、追手門学院大学、追手門学院中高等部の学生も加わり、コロナ禍以前よりもパワーアップして再スタートが出来た。

居住支援法人としての活動は、低所得者や生活保護の住宅扶助範囲に該当する物件が年々少なくなり、選定に苦慮している。新規に協力不動産、地域の大家の開拓が急務である。

**令和4年度 庄栄エルダーデイサービス/認知症対応型デイサービス
事業報告**

【令和4年度庄栄エルダーデイサービス/認知症対応型デイサービス稼働報告】

令和4年度は利用者・職員を含めて沢山の【出会い/別れ】があった年度となった。営業方針としては【NO】はなしで、考えるより前に進むことを意識して職員に対しても利用者様に対しても関わることを重視していった。

*8月には、デイサービスで初めての新型コロナウイルスでクラスターとなり8月8日から8月13日までの計6日間を営業自粛することとなり、収支面で大きな損失となった。7月までは通所介護の前年稼働率は100%を超えていたが、8月以降は前年を上回る月間が少なく停滞した。認知症対応型にも大きな影響があり、稼働率の低下が続き苦しい状況であった。要因としては、「営業をして待つ」の体制をとってしまった事が大きく、【攻める姿勢】が足りなかった。

*コロナ禍でなかなか実施できていなかったイベント行事は、約3年ぶりにデイサービス単体ではあるが、12月18日（日）にフェスティバルを開催する事ができ、活気ある雰囲気を少しずつではあったが取り戻す事ができた。

*人員体制では、6月に1名・11月に2名・12月に1名の正職員を確保できたことが大きく、今後のデイサービスの新体制を整えることができた。

【実績数値】

令和4年度 通所介護・総合支援事業通所介護（登録利用者数49名）

月	営業日数	通所介護	総合支援	合計	前年対比	目標	達成率
4月	26日	933名	36名	969名	94.0%	1,274名	76.00%
5月	26日	965名	41名	1,006名	102.50%	1,274名	79.00%
6月	26日	1,001名	40名	1,041名	105.60%	1,274名	81.70%
7月	26日	1,049名	34名	1,083名	102.40%	1,323名	85.00%
8月	21日	783名	28名	811名	83.30%	1,029名	78.80%
9月	26日	953名	35名	988名	102.70%	1,274名	77.50%
10月	26日	975名	32名	1,007名	97.80%	1,274名	79.00%
11月	26日	934名	41名	975名	90.10%	1,274名	76.50%
12月	27日	954名	41名	995名	90.00%	1,323名	73.70%
1月	24日	905名	41名	956名	98.80%	1,176名	80.40%
2月	24日	916名	41名	957名	106.00%	1,176名	81.40%
3月	27日	994名	44名	1,038名	104.50%	1,323名	78.40%
平均	25.4日	946.8名	37.8名	984.7名	98.10%	1,245名	78.90%

令和4年度 認知症対応型通所介護（登録利用者数 10名）

	営業日数	合計	前年対比	目標	達成率
4月	26日	120名	115.40%	260名	46.10%
5月	26日	121名	111.00%	260名	46.50%
6月	26日	99名	90.00%	260名	38.10%
7月	26日	102名	92.70%	260名	39.20%
8月	21日	61名	57.50%	210名	29.00%
9月	26日	93名	67.40%	260名	35.80%
10月	26日	102名	70.80%	260名	39.20%
11月	26日	97名	70.80%	260名	37.30%
12月	27日	111名	68.90%	270名	41.10%
1月	24日	76名	51.00%	240名	31.70%
2月	24日	84名	65.60%	240名	35.00%
3月	27日	105名	91.30%	270名	38.90%
平均	25.4日	97.6名	79.40%	214名	38.10%

【業務報告】

- 1、毎月2日に係長・主任の2名にて、ショートステイ・ヘルプステーション・配食と共に実績表を持って事業所廻りの実施。
- 2、認知症対応型の新規獲得が難しい状況で、5-6時間の単位数で通常の間より長く施設で過ごして頂ける事をケアマネに営業し、新規獲得に努めた。また、一般デイサービスから認知度の高い利用者様には、ケアマネに相談し、一般から認知症対応への移行の話をしていった。また、ケアマネからの紹介時より【認知症】との記載等があればスタートから認知症対応型を提案して契約に繋げるようにした。
- 3、新型コロナウイルス感染防止の徹底。濃厚接触や発熱等の症状のあるスタッフ、利用者に関しては、徹底して10日～14日の自宅待機とPCR検査を実施しデイサービス内には【持ち込まない】を徹底した。
- 4、毎月、季節感のあるカレンダーの見本を職員が作製し、希望される利用者様は職員と一緒に物づくりの一環として趣味活動を実施し、プレゼントとした。
- 5、毎月第3週目は利用者様の誕生日祝いを実施。手作りの写真フレームに職員と撮った写真をプレゼントし、デイサービス全体でのイベントとした。
- 6、内部研修は新型コロナウイルス感染防止対策として、資料配布にて実施。
- 7、イベント行事関係は、感染状況には十分配慮しながら、診療所（看護師長）と相談し、少しずつではあったが利用者様に楽しんでいただけるイベントを実施した。

【令和4年度 内部研修】

- 4月 認知症ケア研修 担当：田中
- 5月 接遇/服装/マナー研修 担当：福村幸
- 6月 障害に合わせた歩行介助 担当：齊藤
- 7月 デイサービス職員意見交換会
- 8月 計画書に関する研修（作成～評価まで） 担当：入江/兼本/斎藤
- 9月 感染症に関する研修 担当：小林
- 10月 事故発生予防・再発の防止研修 担当：芦田
- 11月 非常災害研修 担当：高
- 12月 身体拘束研修 担当：林
- 1月 プライバシー保護研修 担当：高柳
- 2月 法令遵守研修 担当：内田
- 3月 高齢者虐待防止に関する研修 担当：今井

・内部研修は感染拡大防止の為、基本的には資料を配布し、各自がレポートを提出するようにした。

【令和4年度 外部研修内容】

- ・令和4年度の外部研修は、感染防止に注意しながら参加できる研修会には出来る限り参加をし、スキルアップに努めた。

- 6月2日 カスタマーハラスメント対策講座 受講者：入江
- 11月2日 緊急時の対応処置について 受講者：尾関
- 11月24日 レクリエーション研修（在宅分科会） 受講者：眞田

【令和4年度 伝達研修内容】

- ・伝達研修に関しては、対象となる研修が少なかったが、コロナ禍になってから久しぶりに実施する事ができた。

- 1月17日 レクリエーションに関する研修 担当：眞田
- 1月30日 ケア記録に関する研修（中途採用職員対象） 担当：眞田

【令和4年度 行事/イベント行事報告】

・令和4年度に関しては、周囲の感染状況を把握しながら徐々に外部からの受入れを対応していき、活気のある雰囲気に戻すことを意識していった。
また、訪問カットサービス（ラビィ）も4月から感染状況に配慮しながら再開した。

*お花見 4/1～8

*手作りおやつ週間 5/16～21

*ダンサーイベント 7/28・8/3

*ちとせ学院敬老会（動画） 9/19～20

*孫・子・老ふれ愛フェスタ（作品展示） 10/31～11/2

*デイサービス冬のフェスタ 12/18

*新春かくし芸大会 1/27

*ひな祭りイベント 3/3

*外食ツアー（はま寿司） 3/6～10

*消防訓練 3/30

2022年度 ホームヘルプステーション 事業報告書

※2022年度 実績目標時間数 総時間数 1900時間

(内訳介護保険1,500時間・障がいサービス300時間 子育て支援50時間 保険外サービス 50時間)

総時間数

目標時間1900時間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総時間	1381.5	1432.5	1396.7	1410.0	1408.8	1453.6	1454.5	1463.1	1484.7	1283.6	1255.8	1379.5	16804.0
目標比	73%	75%	74%	74%	74%	77%	77%	77%	78%	68%	66%	73%	74%
前年比	98%	100%	95%	96%	99%	100%	97%	94%	97%	92%	96%	92%	96%

※主要報告事項

○コロナ感染後の死亡(急死)、感染対策での家族の介護から施設へ入る利用者様の増加
身体介護を利用した利用者様の減少。

逆に、訪問型サービスAの利用者様は増加。

○ほのぼのネクスト、ケアパレットは順調に利用しています。

ヘルパーも操作が慣れてきて、リアルタイムで情報が送られ、サービス提供責任者にも随時情報共有ができること家族様にもケアマネからの問い合わせにも即座に返答できている。

介護保険

目標時間1500時間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総時間	1179.0	1197.0	1154.2	1181.0	1173.1	1204.6	1210.0	1210.4	1232.7	1051.8	1017.0	1155.5	13966.0
目標比	79%	80%	77%	79%	78%	80%	81%	81%	82%	70%	68%	77%	78%
前年比	96%	96%	90%	90%	94%	96%	94%	91%	93%	88%	90%	90%	93%

○2022年新型コロナウイルス感染症での影響、訪問型サービスA利用者の増加による影響

コロナの影響での、要介護者の減少、入所やショートステイの利用が増え、入院、死亡者も多い

訪問型サービスAは、利用者人数が増加したが、単価も時間数も低く、

そして訪問型サービスA従事者ヘルパーの定着が難しい。

訪問型サービスAの利用者の特徴に、介護度が軽いことで、キャンセルが多いことも原因

障害居宅サービス・移動支援

目標300時間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
障害(3)	174	189.5	208.75	207.5	199.25	207.5	205	212.5	212	183.75	193	190.25	2383
目標比	58%	63%	70%	69%	66%	69%	68%	71%	71%	61%	64%	63%	66%
昨年対	99%	127%	145%	138%	135%	133%	112%	109%	114%	111%	121%	106%	121%

○コロナ前に少しづつ戻ってきている。 件数は介護より少ないが、安定してきた。

子育て支援

目標50時間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
子育て	8	10.25	11.25	8	9.25	12	12.75	14	10	14	3.75	3.75	117
目標比	16%	21%	23%	16%	19%	24%	26%	28%	20%	28%	8%	8%	20%
昨年対	133%	114%	250%	800%	925%	123%	84%	102%	160%	165%	58%	30%	245%

○子育て支援には、資格なくサービスできる事になってから、サービスを受ける事業者が増え依頼件数が減っています。依頼方法も、茨木市役所からのメールでの依頼となり、直接、電話でお願いされることがなくなってきた。

保険外サービス(アシスタント)

目標50時間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総時間	20.5	37.8	22.0	13.5	27.3	29.5	26.8	26.3	30.0	34.0	42.0	30.0	339.5
目標比	41%	76%	44%	27%	55%	59%	54%	53%	60%	68%	84%	60%	57%
昨年対	71%	180%	83%	113%	105%	80%	119%	144%	214%	140%	258%	101%	134%

○アシスタントサービス

ショートステイでの通院や、入所の利用者様がお困りの時に対応
まるとサービス(送迎付き)のサービスも定着してきている。

新しいシステムの導入

業務改革

○ペーパーレス化

ほのぼのネクスト、ケアパレットの導入が軌道にのり

ヘルパーからの報告がデジタルになったことで、紙による報告書がなくし

複写式の訪問介護記録書(印鑑、サインをもらう)利用者宅に置くものだけとなった。

今後は、現在利用している、利用者ケースファイルを今より、薄いファイルに変更、そして
ケースファイル収納庫の削減を企画しています。

コロナ禍の中で安心してサービスが提供できるように取り組み

昨年に引き続き対策を行っています。

○新型コロナウイルス感染症の中、ヘルパー達の不安が利用者に伝わらないように対策を行った
感染予防策の研修も行い、随時メールや電話で注意を呼び掛けた。

・ヘルパーの家族との交流も注意をさせていただくようにご協力をお願いした。

災害時等の対策

○災害時など固定電話などの通信ができない場合を想定しての対策を検討

・サービス提供責任者、ヘルパー職員、登録ヘルパーは、携帯電話、メール、ラインワークスと三つの連絡網を作成し対応している。

今後は利用者様にも、緊急時の連絡手段を個々に決めていくことを初めている。

人材確保

○求人活動を

令和4年9月、令和5年2月 の2回 茨木市主催訪問型サービスA従事者養成研修

高槻の就職フェアに参加しました。

結果 ・2月の訪問型サービスA従事者研修で、初任者研修修了者のヘルパーより連絡があり登録。

・電話での問い合わせで、1名介護福祉士が登録しています。

休職 訪問型サービスA従事者は、3名いましたが、2名休職、1名となる。

退職 従来のヘルパーも4名退職者がいました。

【ヘルパー勉強会のリ*考えて行動できるヘルパー育成

★勉強会内部職員、登録ヘルパー全員

月	内容	月	内容
4月	依存症について	10月	身体介護術について
5月	身体介護(移動、移乗)	11月	ハラスメント問題を考える
6月	プライバシー保護について	12月	認知症の人への接し方
7月	緊急時対応	1月	リスクマネジメント(事故再発防止)
8月	感染症(身を守る)	2月	感染症
9月	生活援助(掃除)	3月	虐待(障害者虐待防止法)

○ 新型コロナウイルス感染症対策で、外部者は施設内に入れなくなったことで資料配布と、恵の杜での少人数での研修を行いました。

資料では、伝わらないことが多かったと感じています。

○外部研修リモート研修

令和5年3月7日 介護BCP作成セミナー(訪問系) 杉浦

◎外部研修(茨木市南館)

令和5年1月26日 権利擁護について (茨木市主催) 松尾

令和4年度ケアプランセンター事業報告

○報告事項

- ・引き続き新型コロナ感染予防のため、出勤前の検温・マスクの着用・手指消毒・フェースシールドの着用を徹底することで、感染予防に努めることができ、安心して業務に就くことができた。
- ・令和4年度の新規プラン数 69件、他界・施設入所 64件、長期入院 19件とあった。やはり介護度の重度化による在宅介護の負担・在宅サービス費用の負担軽減のための施設入所持病の悪化による長期入院、他界の増加がみられた。少しでも収入アップを目指すために1件でも認定調査の件数増加の意識づけが浸透している中今年度も認定調査件数が多く市内 226件・市外、府外 79件 合計305件の実績があった認定調査の依頼については、特に高槻市からの調査依頼が多くあった（コロナ禍の影響なのか認定調査を引き受けていただく事業所が減少したため）
- ・また、今年度は新たな収穫として施設紹介業者からの新規プラン依頼があった。施設紹介業者が併設している住宅型有料老人ホームが茨木市内で2箇所新設オープンし、新設オープンに入居される新規利用者のプランをいただきました。

○ケアマネ活動報告

- ・週1回のケアマネ会議の開催（毎週火曜日 11時～12時）

（内部研修）

- ・毎月1回ケアマネ会議終了後

4月	接遇について	10月	高齢者虐待について
5月	福祉用具について（事例検討）	11月	救命処置について
6月	感染症について	12月	訪問介護 （同居家族の充足したケア）
7月	糖尿病疾患の利用者への関わり	1月	人権学習
8月	緊急・災害時の対応について	2月	通所介護の加算
9月	課題総括表について	3月	住宅改修について

（外部研修）

5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプラン研修会 ・ケアマネジメント研修会 ・地域ケア会議（太田西河原・東白川）
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント研修会 ・地域ケア会議（大池中津）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・新阿武山病院「医療と介護のネットワークづくり」 ・「自立支援・重度化防止に係る研修会 ・社会資源と総合事業

	<ul style="list-style-type: none"> ・通所型Cについて ・みどりヶ丘訪問看護による介護保険事業について ・地域ケア会議（太田西河原）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント研修会（1回） ・パーキンソン病を知ろう ・地域ケア会議（東白川）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・「がん薬物療法を受けている患者さんを地域で支える」
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント研修会（2回） ・地域ケア会議（東白川）
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント研修会（3回）
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・認定調査現任研修 ・自立支援・重度化防止について ・ケアプラン点検 ・医療と介護の連携研修会 ・基本チェックリストを活用した要支援者へのアセスメント研修会
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅改修について ・地域ケア会議（大池中津）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援・重度化防止に係る研修 ・薬剤師による漢方薬について

※新型コロナ感染拡大予防にて今年度の外部研修は全てオンライン研修

○実績報告

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
ケアプラン数	167	172	176	179	178	175
予防プラン数	49	44	44	43	48	51
認定調査件数	16	24	26	28	23	27
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ケアプラン数	173	176	180	186	182	183
予防プラン数	52	57	59	60	64	59
認定調査件数	31	24	22	29	21	34

ケアプラン数 月平均 177件

予防プラン数 月平均 53件

認定調査件数 月平均 19件

○相談件数実数

・今年度の相談件数 92件（新規プランに繋がった件数 69件）

月平均 8件（内訳は包括 28件 家族 26件 医療機関 5件 他事業所 30件）

○サービス担当者開催件数

・延べ 381 件

医師との連携 62 件

介護保険更新申請時・区分変更時・介護サービスが増えたとき・減ったときにサービス担当者会議を開催する。利用者は日々状態が変化しており、プランの変更が必要性も増えているため必要に応じて、利用者を中心に関係者が意見を出し合う場を設定していく。

○戦略会議

・第1回 7月22日

・第2回 10月21日

・第3回 1月20日

・第4回 3月17日

今年度もコロナ感染予防のため、資料での回覧となる

<令和4年度 三島・庄栄地域包括支援センター 事業報告書>

令和3年4月より東保健福祉センター内に開設され2年目。新型コロナウイルスの影響は1年目よりは少しずつ緩和され、サロン等も開催されるようになり積極的に参加。会議もZoom会議が主流であったが対面開催となってきている。ただ、高齢者の方が外出を控えていた時期に筋力低下が進行。それにより、転倒が増加したり骨折したことで、福祉用具レンタル相談が増加。これ以上の筋力の低下防止、向上を目指し、茨木市独自サービスのリハビリ専門職同行訪問や短期集中リハビリトレーニング等を積極的に利用し、運動習慣を持ってもらえるように努めた。

一人20件制限のため、20件×4人=80件/月を目標とした。

①総合事業（ヘルパー、デイのみ利用の方）

☆包括独自プラン．．．302件/年（内新規12件）⇒前年度より、56件増（内新規2件増）

☆委託プラン．．．．．653件/年（内新規22件）⇒前年度より、63件減（内新規10件増）

②予防給付（福祉用具レンタル、訪問看護、デイケアを単独利用若しくは総合事業と併用利用の方）

☆包括独自プラン．．．550件/年（内新規19件）⇒前年度より、145件増（内新規7件増）

☆委託プラン．．．．．1016件/年（内新規24件）⇒前年度より、52件減（内新規1件増）

- 前年度より全体プラン数は、総合事業が7件減（内新規12件増）、予防給付が93件増（内新規8件増）。新規で福祉用具レンタルのみ希望、継続利用されている方が福祉用具レンタルを追加されたことなどが予防給付が増えた原因と考えられる。

<地区福祉委員会事業>

☆サロン、給食会等【三島小学校区、庄栄小学校区】

29回（血压測定、個別相談 延べ208名）

- 前年度より、17回参加が増。血压測定も再開し、208名の方の血压測定や健康相談等が行えた。

2. 総合相談

介護保険未申請及び認定があってもサービス利用にむずびついていない方の相談

☆関係機関（ケアマネ、医療機関、行政等）．．延べ1008⇒前年度より、475件増。

☆住民（本人、家族、知人等）．．．．．延べ1201⇒前年度より、577件増。

☆その他（NPO、障害、民間サービス等）．．．．延べ88件 ⇒前年度より、88件増。

- 前年度より、全体で延べ1140件増加し、新規相談者は73名増加。コロナ感染予防による外出の減少で筋力低下や健康不安が増えたことで相談が増えたと考えられる。

3. 権利擁護事業

☆成年後見制度．．延べ6件⇒前年度より、24件減。

☆消費者被害．．延べ3件⇒前年度より、3件増。

☆虐待．．．4人（疑い含む）【身体的1件、介護放棄0件、経済的1件、心理的4件】※重複あり
2人虐待なしと判断、2人分離（DVシェルター、施設入所）。⇒前年度より、4人減

- 成年後見制度、虐待相談が、年々減少。今後、周知・啓発を関係機関に早急に行う。
特に、虐待の通報が茨木市全体で減少している。

☆ ケアマネに対する個別指導・相談…………… 307回⇒前年度より、131件増。

●開設2年目となり、気軽に電話相談してもらえ関係ができてきている。

☆ 関係機関との連携づくり※…………… 103回⇒前年度より、48件減

※関係機関との会議や連絡会、セーフティーネット会議（庄栄地区、三島地区）、小規模多機能施設運営推進会議（グループホーム末広は書面開催、ばるの家、エルダーデイサービスセンター、デイ100はコロナ感染予防にて開催なし）

●本年度は、東保健福祉センター内の連携会議が毎週開催から隔週開催となり、相談支援部会運営委員会担当でなくなったことで連絡会や会議が減った。

☆ 支援困難ケース※…………… 新規10人⇒前年度より、3人減少。

※本人や家族に障害（精神、知的）、虐待、問題行動を伴う認知症状等の9項目に分類。

対応（電話や訪問、ケースカンファレンス等）は、105回。⇒前年度より、73回減少。

●本年度は、入院や入所で対応終了するケースが増えたことで対応回数が減少したと考えられる。

5. 地域ケア会議

【自立支援型地域ケア会議、モニタリング】

日にち	時間	場所	内容（事例）	参加人数
5月17日	13:30～14:35	東保健福祉センター	①他者の世話になることを拒んでいる男性②転倒が増えている女性	①11 ②12
6月21日	13:30～14:40	東保健福祉センター	③体力低下している男性④交通事故の後遺症のある男性	③12 ④14
9月20日	13:30～14:40	東保健福祉センター	事例①②③モニタリング	①12 ②15 ③13
10月18日	13:30～13:55	東保健福祉センター	事例④モニタリング	④13

【複合型地域ケア会議、モニタリング】

7月19日	13:30～14:30	東保健福祉センター	⑤8050問題をかかえる心身ともに支援が必要となった女性	⑤14
10月18日	13:55～14:25	東保健福祉センター	事例⑤モニタリング	⑤14

【東圏域合同地域ケア会議】

1月16日	13:30～14:35	東保健福祉センター	⑥認知症の方を地域で支えるためにできること	⑥18
-------	-------------	-----------	-----------------------	-----

① 〈会議〉

- ・ 茨木市地域包括支援センター運営協議会（年4回：内2回書面会議）
- ・ 茨木市地域包括支援センター連絡会（毎月：内10ヶ月Zoom会議）
- ・ 茨木市総合事業連絡会（毎月：内10ヶ月Zoom会議）
- ・ 茨木市認知症地域連携連絡協議会（年1回）
- ・ レビュー会議【虐待評価】（年3回）
- ・ 茨木市地域包括支援センター主任介護支援専門員連絡会（毎月）
- ・ 茨木市地域包括支援センター医療職連絡会（年8回：内1回Zoom会議）

- ・茨木市地域包括支援センター社会福祉士連絡会（レビュー会議年3回、通常会議年7回）
- ・茨木市認知症地域支援員との連携会議（年3回）
- ・茨木市立総持寺いのち・愛・ゆめセンター支援方策会議（年2回）
- ・相談機能強化事業連携会議（年4回）

〈研修会開催等〉

- ・東圏域合同ケアマネ研修「社会資源や運動教室、総合事業通所型Cを理解し、自立支援に役立てる」
（7月22日：15名参加）
- ・主任ケアマネ合同研修「介護のパラダイムシフトと茨木市の総合事業」（9月16日：53名参加）
- ・東圏域合同ケアマネ研修「医療と介護の連携」（2月13日：21名参加）
- ・庄栄小学校区勉強会「高齢者ホームの選び方」（10月6日：29名参加）
- ・三島小学校区勉強会「高齢者ホームの選び方」（10月6日：21名参加）

〈周知・啓発等〉

- ・茨木市アルツハイマー月間啓発イベント（9月29日：109名参加）
- ・ちかつアートフェスタ（7月14日：60名参加）
- ・ウインターフェスティバル（7月14日：344名参加）
- ・まほろばカフェ「地域包括支援センターって何するところ？」（3月17日：21名参加）
- ・茨木シニアカレッジ「地域包括支援センターの活動を知る」（11月2日：20名参加）

〈実習生〉

- ・藍野短大専攻科（11月 2日間 1名）

人員（令和4年3月末現在）※1

センター長(社会福祉士兼務)	1名
看護師	1名
主任介護支援専門員	1名
社会福祉士	1名
介護支援専門員	1名

※1 入退職なし

〈 太田・西河原 地域包括支援センター 〉 令和4年度 年間事業報告

◎重点目標(コロナ感染予防対策)に対して

1. コロナ感染予防対策を徹底し、訪問相談、来所相談等もできる限り短時間で対応しました。また、コロナワクチンの正しい情報を住民に提供し、ワクチン接種に関する支援を行いました。
2. 地域包括支援センター主催の地域ケア会議や研修会等についても、茨木市の指針に従って、体温測定、マスク着用、手指消毒、室内換気に留意して開催しました。

○概要

太田・西河原エリアにおいて、令和3年4月より地域で暮らす高齢者の心身の健康保持や福祉の増進等のために様々な活動に取り組んでいます。昨年度もコロナにより、多くの方が集まる場や活動は殆どが中止となっています。

そのような中で、『太田・西河原レター』というオリジナル広報誌を年2回、各1000部発行いたしました。地域の自治会長、自治会の回覧板や掲示板上にて周知するとともに、民生委員の高齢者訪問時にも活用いただくことができました。

今後も定期的に発行し、包括の周知・啓発に努めてまいります。

アウトリーチ活動にも力を入れ、80歳以上の介護保険未申請の高齢者120名に訪問を行い、支援の必要性をアセスメントするとともに、包括の周知も行いました。次年度も同様の活動を推進してまいります。

地域ケア会議は、年間6回地域ケア会議を開催することができました。

そのうち、1回は複合課題世帯の事例を取り上げ、専門職の方よりさまざまな助言をいただくことが出来ました。

これらの会議では、多角的な視点を持ち高齢者の自立に向けた支援を行うと共に、地域の課題解決に向けた関係機関との連携を深めることができています。

今後も、関係機関とのネットワークを強化しつつ、地域に密着した相談窓口としての周知を継続して、包括的な支援を行ってまいります。

○3つの目標に対して

1. 太田・西河原地域包括支援センター独自の広報誌（太田・西河原レターNo.3、No.4）を2回発行することができました。各1000部作成し、太田地区の自治会長に個別に持参、24自治会の回覧板上にて周知することができました、西河原地区は掲示板19か所に掲示して頂く事ができました。

広報誌の継続的な発行により、地域の受け入れも昨年と比べて良くなっているため、追加で欲しいとの要望もあり対応しました。

これらの活動は顔の見える関係作りや新包括の周知・連携強化に繋がりました。

2. 4人体制での運営ですが、当日の訪問相談にも対応するなど、信頼される機関となるよう職員一丸となり努めております。
3. 新入職員も研修や指導を受け、相談業務対応、業務の引継ぎ、プラン作成のスキルをつける事ができ、順調に人材育成できております。

○活動報告

1.総合支援事業に関するケアマネジメント業務

- ①訪問型サービス、通所型サービス、短期集中サービス等の特徴などの理解を深め、特に、新規の方には訪問型サービス A のサービスを推進しています。
- ②新しい総合事業のサービスに関しての研修会にも随時参加し、サービス内容の理解を深め、利用者へ提案しております。

2.予防給付に関するケアマネジメント業務

- ①要支援認定者に対して、適切なアセスメントに基づき、プラン作成いたしました。包括担当の新規プランについては、昨年度より微増ではありますが令和3年3月度69件から令和4年3月度72件まで増やすことができいております。引き続き、目標の80件を目指し、努めてまいります。また、委託先の居宅介護支援事業所への助言・指導も随時実施しております。
- ②要支援から要介護となった利用者様（今年度は32名）に対して、居宅介護支援事業所に迅速に繋ぎ、スムーズに移行しました。

3.総合相談・支援事業

- ①今年度は2987件の電話や来所等による相談に対応し、的確な情報提供や、訪問・支援を行いました。民生委員、地区福祉委員、地域住民の相談が173件と増加しており、周知活動の成果が表れていると考えております。
- ②地域住民の困りごとや本来支援が必要な方に支援が届いているか、というアウトリーチの必要性を考え、80歳以上の高齢者120名に対して、個別訪問を実施しました。
- ③茨木市内の全包括、行政、関係機関・隣接する病院や事業所との連携・情報交換も密に行うことができました。
- ④コロナ感染症禍で休止していた、地域のサロン・カフェは令和4年7月以降に再開し、今年度は各地域2～5回程度のカフェ実施となりました。今後も地域の活動状況に応じ、高齢者の実態把握・顔の見える関係作りを継続し、住民活動の支援も行っていきます。
- ⑤公民館、サロン、自治会及び自治会総会、サニーハウス茨木（レディース・マスターズ）など包括の役割や介護保険の説明会を出張講座として6回実施しました。

- ⑥東保健福祉センターとの連携は、毎月の会議にて情報共有や連携した対応ができており、今後も連携を強化していきます。

4.権利擁護事業

- ①虐待等のケースに対して、包括三職種で情報共有し、安全を迅速に確認するとともに、相談支援課やサービス事業所とも連携し、支援を行うことができました。
(定期的にモニタリング実施)
- ②消費者被害防止のため、地域住民が集まる場で周知・啓発や注意喚起を行いました。

5.包括的・継続的ケアマネジメント事業

- ①居宅介護支援専門員が抱える困難事例等に対し、随時、指導・助言もしくは連携を行いました。
- ②圏域のケアマネジャー対象に研修会を2回実施。総合事業について理解を深め、地域の社会資源の紹介をすることで、自立支援の視点を再確認できました。また、医療機関の相談員を招き、医療と介護のスムーズな連携について顔の見える関係作りを支援することができました。
- ③近隣のクリニックと顔の見える関係作りはできており、医師から直接相談を受けることもありました。また、入退院時には相談員との連携を密に行い、利用者の在宅生活を支援しました。

6.地域ケア会議の実施

- ①令和4年度、地域ケア会議を6回実施することができました。
自立支援型4回、複合課題事例1回、地域課題の検討(3包括合同)1回 計6回
- ②令和4年度からケアマネジャーの傍聴も再開して、会議を開催しました。

7.その他

- ①包括主催の認知症サポーター養成講座は、地域住民や関係機関からも高い評価をいただく事が出来ました。
- ②個人情報情報の保護・管理を徹底して行っております。
- ③夜間・休日等も転送電話により24時間体制で対応しました。
(月30件程度 転送電話対応しています)

★セーフティネット会議 (今年度実績)

- ・太田セーフティネット会議 (3回)
- ・西河原セーフティネット会議 (5回)

★給食会・サロン・老人会 (コロナの影響で開催が少なくなっています)

- ・太田地区福祉委員会・・・①いきいきサロン (健康相談・血圧測定) 年1回 中止
- ②単身高齢者みまもり事業 年1回 中止
- ③おちゃべりサロン 年2回程度 中止
- ④東太田アーデル自治会(体操の会) 年4回程度 開催
- ・西河原地区福祉委員会・・・①サニーサロン 毎月1回木曜日 2回開催
- ②やまびこの会 毎月1回火曜日 1回開催
- ③ティーサロン 毎月1回月曜日 5回開催
- ④こだま会 毎月1回水曜日 6回開催

★なんでも相談会 (今年度実績)

- ・太田地区福祉委員会 (2回) 開催なし

★会議等 (今年度実績)

- ・地域包括支援センター運営協議会 (2回)
- ・地域包括支援センター連絡会 (オンライン含む) 毎月第3水曜日 (10回)
- ・介護予防・日常生活支援総合事業連絡会 (同上) 毎月第3水曜日 (10回)
- ・主任ケアマネ会議 (同上) 毎月第3金曜日 (10回)
- ・医療職会議 (同上) 毎月第4火曜日 (10回)
- ・社会福祉士会議 毎月第2火曜日 (2回)
- ・高齢者虐待レビュー会議 (全体の評価・振り返り) (3回)
- ・太田・西河原エリア連絡会 (11回)
- ・3包括センター長連絡会 (3回)
- ・茨木ケアセンターラガール運営協議会 (2回)
- ・みさき花園グループホーム運営協議会 (書面開催)

★今年度 ケアプラン数

- ・自己プラン 目標 80件 (20件×4人) / 月 に対して
→令和5年3月 は 72件 (達成率90%)

*相談内容に応じ、自己プランにスムーズにつなげるよう努めています。

〈 東・白川 地域包括支援センター 〉 令和4年度事業報告

○概要

東・白川地域包括支援センターは、平成31年4月開設から4年が過ぎました。コロナにより休止していた高齢者サロン等の再開や地域カフェが増加し、参加依頼が増えました。東地区は「支え合いミーティング」が定着し、白川地区では「つながるミーティング」が始まり、地域活性化の兆しが見えています。包括としてできる限り参加協力しています。地域住民や民生委員等が「エルダーさんに相談したらいい」と口添えしてくださることもあり、相談件数は増加しています。介護保険等の代行申請や福祉サービスの案内以外に、安否確認や救急搬送の支援など、適切な対応を心掛けました。

○4つの目標に対して

1. 関係機関と協力し、総持寺団地イベントは年2回、白川コープイベントは年1回を開催しました。新たに始まった、総持寺団地カフェ、新堂カフェでは血压測定、相談会を開催し、包括の啓発と、地域づくりの協力を努めています。
2. 個人の目標に合わせて積極的に研修会に参加し、知識を深めるようにしています。受講した研修内容は、回覧にてスタッフ全員と共有しております。
3. 4人体制での運営ですが、専門職の特性を生かせるよう職務分担や情報共有を図りながら、迅速、適切な対応に努めております。
4. 入社2年目の職員は、先輩スタッフの指導を受けながら、ケアプランも積極的に担当していますが、ケアマネ試験に合格し、研修受講中です。困難事例等は、対応時に同行訪問し、その後個別指導を行っています。

○活動報告

1. 総合支援事業に関するケアマネジメント業務

①短期集中リハビリトレーニングやリハ職同行訪問と言った市独自のサービスを積極的に活用し、介護予防や啓発に努めています。

新しく始まった栄養改善型配食も、総合事業としてプラン作成し、活用に努めています。

②新たな啓発の場として、4月からは総持寺団地集会所でのカフェよりそい、8月からは新堂カフェが開催され、地域からの依頼を受けて、相談・血压測定会を開催するようにしました。定期、不定期を含め10か所以上の地域活動に継続的に参加しています。

2. 予防給付に関するケアマネジメント業務

①要支援認定者に対して、適切なアセスメントに基づき、プラン作成いたしました。

委託先の居宅介護支援事業所への助言・指導も併せて実施しました。

②新規申請から要介護認定の方52名（昨年度76名）、要支援から要介護となった利

利用者様 39 名（昨年度 41 名）に対して、居宅介護支援事業所に迅速に繋げられるよう、介護保険サービスの利用継続とケアマネジャーの後方支援に努めました。

3. 総合相談・支援事業

- ①R4 年度延べ 3829 件（昨年度 3161 件）の電話や来所等による相談に対応し、的確な情報提供や、訪問・支援を行いました。うち 903 件（昨年度 451 件）が困難ケース対応でした。
- ②東保健福祉センターでのエリア会議だけでなく、総持寺団地支えあいミーティングや白川コープつながるミーティング、各イベントに参加、協働することで、関係機関との連携が深まりました。
- ③④茨木市内の関係機関以外に、隣接する高槻市の病院や包括、事業所、保健所との連携・情報交換も密に行うことができました。
- ⑤総持寺団地のささえあいミーティングメンバーとして、今年度は UR、高槻富田包括、立命館大学生とも連携し、年間 2 回のイベントを開催することができました。

4. 権利擁護事業

- ①②虐待等のケースに対して、包括三職種で情報共有し、迅速に安全確認するとともに、福祉総合相談課やサービス事業所とも連携して支援を行いました。
- ③消費者被害等の防止のため、警察や消費生活センターとも連携し、セーフティネット会議や民生定例会等にて地域住民への情報提供、啓発に努めました。
- ④成年後見制度の利用が必要と思われる利用者、家族に対して概要説明し、リーガルサポートの紹介だけでなく、申し立て支援を行いました。

5. 包括的・継続的ケアマネジメント事業

- ①ケアマネが抱える困難事例等に対し、随時、助言や同行訪問を行いました。
10 月にはケアマネの困難事例を挙げて複合型地域ケア会議の開催を行いました。
- ②9 月には全包括でケアマネ研修会を開催することができました。
- ③東圏域の居宅支援事業所対象に 7 月は「総合事業と社会資源」の学習会を開催。
2 月には「ケアマネと医療機関（総合病院ケースワーカー）の連携研修」を開催し、ケアマネと医療機関の顔の見える関係づくりを支援しました。

6. 地域ケア会議の実施

- ①自立支援型・複合課題事例、1 回は東圏域合同にて地域課題検討型会議を開催し、目標である年 6 回の開催ができました。
- ②地域課題検討型会議ではグループワークを通して意見交換ができ、参加者から好評をいただきました。

8. その他

- ①個人情報の保護・管理を徹底して行いました。
- ②夜間・休日等も転送電話により 24 時間体制で対応しました。

★セーフティネット会議		(年間実績)
・東セーフティネット会議		(11回)
・白川セーフティネット会議		(10回)
・民生定例会		(8回)
・総持寺ささえあいミーティング		(8回)
★給食会・サロン・老人会等		
・白川地区福祉委員会・・・つどい白川		(4回)
・東地区福祉委員会・・・いきいきサロン		(2回)
・街角デイハウス「コアな仲間」		(6回)
★地域相談会		
・東コミュニティセンター	いこいこ亭相談会	(12回)
・白川高層住宅集会所	いこい亭相談会	(7回)
・白川公民館	カフェしらかわ	(9回)
・鮎川3丁目集会所	カフェあゆみ	(11回)
・総持寺団地集会所	よりそいカフェ	(5回) (R4.3～開催)
・アプロ前血圧測定・相談会		(2回)
・新堂西自治会集会所	新堂カフェ	(8回) (R4.8～開催)
★会議等		
・地域包括支援センター運営協議会		(2回)
・地域包括支援センター連絡会	毎月第3水曜日	(10回)
・介護予防・日常生活支援総合事業連絡会	毎月第3水曜日	(11回)
・主任ケアマネ会議	毎月第3金曜日	(14回)
・医療職会議	毎月第4火曜日	(7回)
・社会福祉士会議	毎月第2火曜日	(8回)
・高齢者虐待レビュー会議(全体の評価・振り返り)		(3回)
・東・白川エリア会議	毎月不定期	(13回)
★講話、イベント等		
・介護予防講話「コロナ禍の健康管理」		
・・・白川サロン(白川地区老人クラブ連合会)		(1回)
・認知症サポーター養成講座・・・東コミュニティセンター		(1回)
・総持寺団地イベント・・・総持寺団地集会所		(2回)
・白川コープ「地域をつなGO」イベント・・・コープ白川店		(1回)

◎売上報告

- ・自己プラン 目標 80件(20件×4人)/月に対して
→平均 72.3件/月(達成率90%)↑

・売上実績は下記の通りです。

令和4年度 売り上げ実績(予防+総合)	総合計
プラン数	868
①介護予防プラン料	4067448
内新規プラン数	32
②初回加算	102720
介護予防プラン料総額(①+②)	4170168

福井多世代交流センター

令和4年度事業報告

茨木市福井多世代交流センターは、高齢者に加えて18歳以下の子どもが利用できる施設として多世代にわたる多くの方々にご利用いただいておりますが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、カラオケ等の高唱を伴う事業の人数制限やマスク等の飛散防止対策を余儀なくされました。

当センターの管理・運営にあたりましては、2月からようやく人数制限も解除されましたが、引き続き徹底した感染拡大防止対策を行いながら事業を実施することにより、利用者数や貸部屋利用などは前年度に比較し増加となりました。

職員配置としましては、事務所に2人以上(午後5時～6時まで1人勤務)の常時職員と送迎車の運行に1人の職員で、施設利用者が1日楽しく過ごしていただけるよう努めました。

(1) 施設の利用人数について

利用者総数につきましては12,915人、1か月の平均利用者数は1,076人で、前年度の1.3倍となり、コロナ禍前の利用者数を上回りました。なお、中学・高校生が学習室を利用した人数は287人でした。

また、送迎車の利用者数は1,937人で、前年度の1.8倍となりました。

(2) 施設の利用状況について

利用状況につきましては、同好会や趣味の団体による曜日を決めての活動、また、日常的にはマッサージ機やヘルストロン、囲碁・将棋、バンパー、卓球、健康麻雀を利用され、高齢者の活発な活動・交流・健康維持の場として活用されています。

同好会や団体の活動としましては、「グラウンドゴルフ」「囲碁・将棋」「カラオケ」「民謡」の各種同好会が、また、趣味の団体として「カラオケ」「民謡」「踊り」などがあり、定期的な活動をされていました。

子どもの利用に関しましては、中学生と高校生が自習のために利用する場として「学習室」を運営しており、「学習支援アドバイザー」を月1回2時間ではありますが配置して、学生の学習支援を行いました。さらに、学習時間を拡大してセンターの利用促進を図るため、夏休み及び冬休みの一定期間に午後9時まで利用ができるように夜間の時間延長に取り組みました。

(3) 介護予防教室などの自主事業について

介護予防教室につきましては、利用者間の健康保持や交流などを目的として定期的実施しており、その内容は「介護予防リズム体操」1回/月、「元気いばらき体操」1回/月を延24回実施し、利用者数は812人(3.4人/回)でした。

高齢者向け事業としましては、柔らかい紐などの用具も活用しながら、身体の部分全体を軽快な音楽に乗って動かすなどの「高齢者向けリズム体操」2回/月、作業療法士による「健康リハビリ体操」1回/月を延36回実施し、利用者数は1,189人(3.3人/回)でした。また、カラオケ広場及びカラオケナイトを実施し、利用者数は640人(2.8人/回)でした。

教養講座につきましては、腸内環境の改善をテーマにした血管年齢測定なども交えた「ヤクルト健康クイズ&ラリー」を5回、睡眠と健康などをテーマにした「明治安田健康知恵袋講座」を6回、「りそな終活セミナー」を1回実施するとともに、「お笑い福祉使講座」を1回開催し、利用者数は203人(1.6人/回)でした。なお、お笑い福祉使講座に併せた「うどん大会」も実施しました。

映画会につきましては、懐かしい映画などの作品を月2回上映して、利用者の皆さんに楽しんでいただきました。

また、防災訓練(身を守る行動訓練、館内放送訓練)及び避難訓練(通報訓練、避難訓練・避難誘導訓練、消火訓練)を各1回実施し、参加者数は39人でした。

< 部屋利用料及び附帯設備利用料の収入金額 >

	部屋利用料	附帯設備利用料	合 計
4月	71,940 円	37,900 円	109,840 円
5月	23,380 円	30,500 円	53,880 円
6月	41,360 円	37,300 円	78,660 円
7月	36,420 円	32,900 円	69,320 円
8月	21,240 円	22,600 円	43,840 円
9月	40,740 円	32,000 円	72,740 円
10月	48,640 円	33,000 円	81,640 円
11月	24,060 円	36,100 円	60,160 円
12月	44,960 円	29,700 円	74,660 円
1月	26,960 円	23,300 円	50,260 円
2月	19,140 円	24,700 円	43,840 円
3月	42,020 円	37,800 円	79,820 円
合 計	440,860 円	377,800 円	818,660 円

< 月別事業内容 >

※()内は参加人数

4月	6日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(37人)
	7日	高齢者向け事業「映画会」(6人)
	10日	高齢者向け事業「カラオケナイト」(7人)
	13日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(36人)
	15日	教養講座「明治安田健康睡眠知恵袋講座」(20人)
	16日	高齢者向け事業「健康リハビリ体操」(16人)
		子ども・子育て世帯向け事業「学習アドバイザー支援」(0人)
	20日	介護予防教室「元気いばらき体操」(21人)
	21日	高齢者向け事業「映画会」(9人)
	26日	高齢者向け事業「カラオケ広場」(40人)
	27日	介護予防教室「介護予防リズム体操」(34人)
5月	11日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(36人)
	12日	高齢者向け事業「映画会」(7人)
	15日	高齢者向け事業「カラオケナイト」(6人)
	18日	介護予防教室「元気いばらき体操」(24人)
	19日	高齢者向け事業「映画会」(6人)
	21日	高齢者向け事業「健康リハビリ体操」(14人)
		子ども・子育て世帯向け事業「学習アドバイザー支援」(1人)
	24日	高齢者向け事業「カラオケ広場」(43人)
	25日	介護予防教室「介護予防リズム体操」(36人)
6月	1日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(37人)
	2日	高齢者向け事業「映画会」(6人)
	8日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(36人)
	12日	高齢者向け事業「カラオケナイト」(4人)
	15日	介護予防教室「元気いばらき体操」(28人)
	16日	高齢者向け事業「映画会」(4人)
	17日	教養講座「明治安田健康睡眠知恵袋講座」(11人)
	18日	高齢者向け事業「健康リハビリ体操」(18人)
		子ども・子育て世帯向け事業「学習アドバイザー支援」(3人)
	22日	介護予防教室「介護予防リズム体操」(43人)
	28日	高齢者向け事業「カラオケ広場」(58人)
	29日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(39人)
7月	3日	高齢者向け事業「カラオケナイト」(4人)
	6日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(40人)
	7日	高齢者向け事業「映画会」(9人)
	8日	教養講座「ヤクルト健康クイズ&ラリー」(10人)
	13日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(43人)
	16日	高齢者向け事業「健康リハビリ体操」(15人)
		子ども・子育て世帯向け事業「学習アドバイザー支援」(0人)
	20日	介護予防教室「元気いばらき体操」(25人)
	21日	高齢者向け事業「映画会」(7人)

	26日	高齢者向け事業「カラオケ広場」(42人)
	27日	介護予防教室「介護予防リズム体操」(38人)
	28日～31日	夜間学習室延長事業(延べ0人)
8月	2日～5日	夜間学習室延長事業(延べ3人)
	3日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(35人)
	4日	高齢者向け事業「映画会」(4人)
	10日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(39人)
	14日	高齢者向け事業「カラオケナイト」(9人)
	17日	介護予防教室「元氣いばらき体操」(27人)
	18日	高齢者向け事業「映画会」(2人)
	19日	教養講座「明治安田健康づくり栄養講座」(6人)
	20日	高齢者向け事業「健康リハビリ体操」(11人) 子ども・子育て世帯向け事業「学習アドバイザー支援」 (新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業中止)
	23日	高齢者向け事業「カラオケ広場」 (新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業中止)
	24日	介護予防教室「介護予防リズム体操」 (新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業中止)
9月	1日～7日	作品展示会(4人、29作品)
	1日	高齢者向け事業「映画会」(9人)
	2日	大阪880万人訓練に伴う防災訓練(20人)
	7日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(42人)
	9日	教養講座「ヤクルト健康クイズ&ラリー」(15人)
	14日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(46人)
	15日	高齢者向け事業「映画会」(11人)
	17日	高齢者向け事業「健康リハビリ体操」(16人)
	19日	子ども・子育て世帯向け事業「学習アドバイザー支援」(0人) 高齢者向け事業「カラオケ広場」(47人) (台風14号に伴う暴風警報発令12:57による臨時休館13:30)
		高齢者向け事業「カラオケナイト」 (台風14号に伴う暴風警報発令12:57による臨時休館13:30)
	21日	介護予防教室「元氣いばらき体操」(21人)
	28日	介護予防教室「介護予防リズム体操」(45人)
10月	5日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(49人)
	6日	高齢者向け事業「映画会」(7人)
	7日	教養講座「りそな終活セミナー」(13人)
	9日	高齢者向け事業「カラオケナイト」(5人)
	12日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(43人)
	15日	高齢者向け事業「健康リハビリ体操」(11人) 子ども・子育て世帯向け事業「学習アドバイザー支援」(1人)
	19日	介護予防教室「元氣いばらき体操」(27人)
	20日	高齢者向け事業「映画会」(8人)
	21日	教養講座「明治安田健康づくり栄養講座」(10人)
	25日	高齢者向け事業「カラオケ広場」(56人)
	26日	介護予防教室「介護予防リズム体操」(43人)
	30日	高齢者向け事業「カラオケナイト」(7人)
11月	2日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(44人)
	8日	高齢者向け事業「カラオケ広場」(51人)
	9日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(49人)
	10日	高齢者向け事業「映画会」(9人)
	11日	教養講座「ヤクルト健康クイズ&ラリー」(13人)
	13日	高齢者向け事業「カラオケナイト」(7人)
	16日	介護予防教室「元氣いばらき体操」(30人)
	17日	高齢者向け事業「映画会」(8人)
	19日	高齢者向け事業「健康リハビリ体操」(11人) 子ども・子育て世帯向け事業「学習アドバイザー支援」(1人)
	22日	教養講座「お笑い福祉使講演会」(54人)
		高齢者向け事業「うどん大会」(69人)
	30日	介護予防教室「介護予防リズム体操」(48人)

12月	1日	高齢者向け事業「映画会」(9人)
	7日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(47人)
	11日	高齢者向け事業「カラオケナイト」(6人)
	13日	高齢者向け事業「カラオケ広場」(45人)
	14日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(47人)
	15日	高齢者向け事業「映画会」(10人)
	16日	教養講座「明治安田楽しく学ぶ認知症予防講座」(10人)
	17日	高齢者向け事業「健康リハビリ体操」(8人)
		子ども・子育て世帯向け事業「学習アドバイザー支援」(0人)
	21日	介護予防教室「元氣いばらき体操」(27人)
	28日	介護予防教室「介護予防リズム体操」(36人)
1月	4日～7日	夜間学習室延長事業(延べ1人)
	4日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(43人)
	5日	高齢者向け事業「映画会」(13人)
	8日	高齢者向け事業「カラオケナイト」(7人)
	11日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(49人)
	13日	教養講座「ヤクルト健康クイズ&ラリー」(15人)
	18日	介護予防教室「元氣いばらき体操」(26人)
	19日	高齢者向け事業「映画会」(8人)
	21日	高齢者向け事業「健康リハビリ体操」(15人)
		子ども・子育て世帯向け事業「学習アドバイザー支援」(2人)
	22日	子ども・子育て世帯向け事業「絵本読み聞かせ教室」(0人)
	24日	高齢者向け事業「カラオケ広場」(59人)
	25日	介護予防教室「介護予防リズム体操」(17人)
2月	1日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(47人)
	2日	高齢者向け事業「映画会」(12人)
	8日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(46人)
	12日	高齢者向け事業「カラオケナイト」(11人)
	14日	高齢者向け事業「カラオケ広場」(58人)
	15日	介護予防教室「元氣いばらき体操」(33人)
	16日	高齢者向け事業「映画会」(9人)
	17日	教養講座「明治安田楽しく学ぶ認知症予防講座」(9人)
	18日	高齢者向け事業「健康リハビリ体操」(16人)
		子ども・子育て世帯向け事業「学習アドバイザー支援」(1人)
	22日	介護予防教室「介護予防リズム体操」(46人)
	26日	子ども・子育て世帯向け事業「絵本読み聞かせ教室」(1人)
		子ども・子育て世帯向け事業「親子で映画会」(2人)
3月	1日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(48人)
	2日	高齢者向け事業「映画会」(6人)
	8日	高齢者向け事業「高齢者向けリズム体操」(54人)
	10日	教養講座「ヤクルト健康クイズ&ラリー」(17人)
	12日	高齢者向け事業「カラオケナイト」(9人)
	14日	高齢者向け事業「カラオケ広場」(59人)
	15日	介護予防教室「元氣いばらき体操」(38人)
	16日	高齢者向け事業「映画会」(7人)
	18日	高齢者向け事業「健康リハビリ体操」(6人)
		子ども・子育て世帯向け事業「学習アドバイザー支援」(0人)
	22日	介護予防教室「介護予防リズム体操」(51人)
	23日	消防避難訓練(19人)
	26日	子ども・子育て世帯向け事業「絵本読み聞かせ教室」(4人)
		子ども・子育て世帯向け事業「親子で映画会」(8人)
	29日	介護予防教室「介護予防リズム体操」(48人)

<実施事業の実施回数及び利用者数>

介護予防教室	介護予防リズム体操	12回	485人
	元気いばらき体操	12回	327人
高齢者向け事業	高齢者向けリズム体操	24回	1,032人
	健康リハビリ体操	12回	157人
	カラオケ広場	11回	558人
	(新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業中止1回を除く。)		
	カラオケナイト	12回	82人
	映画会	24回	186人
	作品展示会	6日	29作品
	うどん大会	1回	69人
教養講座	ヤクルト健康クイズ&ラリー	5回	70人
	明治安田健康知恵袋講座	6回	66人
	りそな終活セミナー	1回	13人
	お笑い福祉使講演会	1回	54人
子ども・子育て世帯向け事業	学習アドバイザー支援	11回	9人
	(新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業中止1回を除く。)		
	学習室夜間延長事業	12回	4人
	親子で映画会	2回	10人
世代間交流事業	絵本読み聞かせ教室	3回	5人
防災訓練(身を守る行動訓練、館内放送訓練)		2回	20人
消防避難訓練(通報訓練、避難・避難誘導訓練、消火訓練)		1回	19人

<センター利用者数等>

	利用者数			送迎車利用者数
	男性	女性	合計	
4月	457人	722人	1,179人	183人
5月	407人	598人	1,005人	156人
6月	497人	781人	1,278人	190人
7月	421人	653人	1,074人	149人
8月	293人	425人	718人	102人
9月	404人	636人	1,040人	147人
10月	429人	693人	1,122人	158人
11月	484人	738人	1,222人	180人
12月	388人	636人	1,024人	172人
1月	368人	575人	943人	149人
2月	367人	613人	980人	156人
3月	484人	846人	1,330人	195人
合計	4,999人	7,916人	12,915人	1,937人

<センターの職員状況>

令和3年4月	所長	西村 能一
平成27年4月	職員	河上 順子
令和元年9月	職員	濱野 キク江
令和3年4月	職員	佐崎 廣幸
令和5年1月	職員	水谷 麻利子
令和3年8月	運転手	中村 勝侍
令和3年2月	運転手	上羽 勝

令和4年度 地域密着型認知症対応型デイサービスセンター未来事業報告

〔令和4年度事業報告事項〕

デイサービスセンター未来の運営事業に関する報告

- ・令和4年2月に17名のクラスターが出て、立て直しを図ってきた。
家族感染・入院・転倒の為に休む方が増えてしまった。
コロナに感染した方の認知症状の進行も打撃となった。
分母を増やして行く為に営業の数も増やしていったが
コロナの影響を受け、居宅介護支援事業所の出入りを
禁止された事もあった。
- ・ガソリン代高騰
送迎車を単独でのお迎えを極力避け、複数名のご利用者様のお迎えが出来るように送迎表の見直しを行った。
- ・食材費・仕入れ費の上昇の影響により委託業者様からの委託管理費等の値上げ通達があった為、8月より昼食代を500円から650円の変更を行った。
- ・10月より介護職員等ベースアップ加算等支援2.3%を開始した。

1月～3月に職員が行ってきた事

☆ 新規獲得に向けた動き

未来のアピール・新規開拓をより一層強化していくと共に生活相談員同士の関りの強化を図る。他部所との連携を図る。

☆ 電気代削減

ご利用者様がいない時間はつけない、使わないを徹底した。
入浴の準備もご利用者様が来られてからにした。
事務所・静養室の電気は人のいない時間は消灯する。
空調関係も管理を徹底する。

☆ 人件費の削減

月に3～4の応援に協力する。（人数の足りない部所への応援）

○中長期計画に基づき

- ☆生活リハビリの強化を行いました。出来ることを自ら進んで行えるように毎日同じ方に同じ内容のプランを立て、集中出来る作業の提供を行う。
- ☆生きがい対策
 - ・良い利用体験として、レクリエーション、外出の機会、季節行事を実施し、利用の動機づけを行う。
 - ・外出の決定などは利用者の状態を見極め、ニーズに合った・場所を選択しより効果的な物にした。

☆運営推進会議

令和4年 6月16日 書面にて開催	10名	家族様 民生委員 ケアマネ様
令和4年 12月17日 書面にて開催	10名	ご本人様 地域包括センター様など
内容 活動業況の報告		
<p>令和4年度の、事業計画、目標、イベント、要慮者避難施設、職員外部研修計画についての報告を行う。認知症対応型通所介護のあり方、今後の協力をお願いする。今後の地域の活動にも一緒に参加させていただけるようお願いする。</p>		

〔実績報告〕

年月	営業日数(日)	目標	利用者様(名)	一日平均利用者様人数(名)	目標達成率	前年対比
令和4年4月	26	312	194	7.5	62.2%	79.2%
5月	26	312	194	7.5	62.2%	82.6%
6月	26	312	230	8.8	73.7%	100.9%
7月	26	312	219	8.4	70.2%	98.2%
8月	27	324	206	7.6	63.6%	79.8%
9月	26	312	214	8.2	68.6%	85.9%
10月	26	312	213	8.2	68.3%	90.3%
11月	26	312	274	10.5	87.8%	119.7%
12月	27	324	275	10.2	84.9%	125.0%
令和5年1月	24	288	222	9.3	77.1%	108.3%
2月	24	288	227	9.5	78.8%	218.3%
3月	27	324	265	9.8	81.8%	123.3%
合計	311	3732	2733	-	-	-
年間平均	-	-	-	8.8	73.2%	92.1%

今年度11月からは昨年比が100%を超える月が続くことが出来る。現在空きがない状態まで分母を増やすことが出来ている為、今後も継続して営業活動をする。

〔勉強会〕

2022年	内部勉強会内容	感想・勉強したこと	担当者名
4月25日	業務改善 (LIFE) について	介護に携わる者すべてが一覧でき、業務が捗る様になった事を学びました。フィードバックを受け、計画書等の改善など、今までよりも内容が解りやすく確実性があることを学びました。	小西
5月20日	リスクマネジネント	事故を未然に防ぐ為に介護事故リスクを把握し、組織的に管理する事を学びました。事故防止を心掛けることを学習しました。	井上
6月17日	緊急時の対応 (避難確保計画に基づいて)	日頃から回数を増やして避難訓練を行うことを学びました。いざという時に素早く安心して安全に動くということを学びました。	河田
7月15日	認知症ケアについて	認知症の方のケア、接し方を十分に理解し介護して行くことを学習しました。認知症の方が安心して過ごせる環境が大切だと学びました。	田中
8月19日	感染症や災害への対応力	日頃から感染症の知識を勉強しておく事を学びました。避難生活は不安があるのでゆっくり声かけを行うことを学びました。	吉村
4 9月21日	人権研修ー権利擁護ー	虐待に至らないように外部の人との関係や組織として意識的に風通しをよくすることが大切だと学びました。	小西
10月5日	認知症事例検討 (認知症ケア)	ご利用者様が安心して過ごせる用に「居るだけで大丈夫」と思って頂ける環境を作り、アプローチすることが私たちの仕事だと学びました。	長田
11月18日	接遇・マナーについて	性格や思考、好みが異なる利用者様一人ひとりと向き合っその方のニーズを汲み取れるように傾聴しくことを学びました。	井上
12月16日	身体拘束・虐待	私たちは利用者を守るべき存在であるべきなのに虐待など絶対にあってはならないと学びました。	田中
2022年 1月13日	感染症・食中毒事例検討	いつもと違う状態を見つけた時は感染症を疑う事。マニュアルに沿った対応をして 感染予防徹底するということを学びました。	長田
2月17日	倫理・法令順守について	法令をきちんと守ったうえで利用者様の尊厳を守り職員一人ひとりが専門職として支援していくことが大切であると学びました。	吉村
3月17日	非常時の訓練 (防犯・消防)	認知症利用者の避難訓練においては、出来るだけ分かり易い短い言葉選びをし、コロナウイルス禍の避難訓練は密を避けるということの周知徹底。	河田

2022年度のイベント

日	場所	利用者参加人数	前年度参加人数	担当	状況報告
4月6日	花見 (水尾公園 桜通り) 春を祝う会	11名	10名	小西	<p>全員で水尾公園まで桜を見に行き写真撮影を行いました。お天気もよく絶好のお花見日和になりました。ご利用者様は上を見上げて「綺麗～」と言われておられました。</p> <p>目的・趣旨：桜を見に行くことで季節を感じて頂き外を歩く事で認知症状緩和の為に企画しました。</p>
4月15日	写真で若い頃を 思い出そう会	6名	9名	吉村	<p>若い時の写真をご家族様に用意して頂きました。昔のお話をして頂き、「昔は背が高かった。」「戦争は大変だった。」と時代の流れをお話してくれました。</p> <p>目的・趣旨：回想法を取り入れることで認知症緩和の為に企画・開催しました。</p>
5月7日	母の日会	9名	11名	長田	<p>母の日にお花と手作りカードのプレゼントをさせて頂きました。とても喜ばれておられました。</p> <p>目的・趣旨：子育てをしていた頃を思い出していただき日頃の感謝を込めて開催させて頂きました。</p>
5月17日	バラの会 若園公園	9名	10名	田中	<p>若園バラ公園にいきたくさんのバラを見て頂き公園内の散策を行いました。「きれいね」「いい香り」といった言葉が多くみられていました。</p> <p>目的・趣旨：認知症予防として、バラを鑑賞することで季節を感じて頂く為に企画、開催しました。</p>
6月16日	父の日	9名	10名	小西	<p>皆様の日頃の感謝を込めて写真入りメッセージカードをプレゼントさせて頂き男性は照れくさそうにされて、女性にはこやかに過ごされておられました。</p> <p>目的・趣旨：活躍されていた頃を回想していただき日頃の感謝を込めて企画・開催しました。</p>
6月24日	あじさい会	7名	11名	小西	<p>ビンゴ大会をして皆様で盛り上がってくれておられました。昼食には特別メニューを召し上がって頂き、一人ずつの写真撮影を行いました。</p> <p>目的・趣旨：ビンゴ大会では数字をめくる作業をすることで認知症進行防止になるために企画しました。</p>
7月8日	七夕会	7名	10名	田中	<p>一人ずつ短冊に願い事を書いていただき飾りつけをしました。短冊の前で写真撮影をしたりレクリエーションをして楽しみ盛り上がりしました。</p> <p>目的・趣旨：考えて書くという事が難しくなっております利用者様にもお願い事をするという企画をしました。</p>
7月26日	夏を乗り 切ろう会	10名	12名	河田	<p>スイカのボールを使ってスイカ割りを体験して頂き楽しまれました。おやつにはスイカを召し上がって頂き昼食にはスタミナメニューを召し上がって頂きました。</p> <p>目的・趣旨：スイカ割りをして頂き、季節感も味わって尚かつ認知症予防にもつながる企画をさせて頂きました。</p>

8月25日	未来の輪 (和) お祭り	7名	12名	井上	毎年恒例の夏祭りを開催することにより皆さまにヨーヨー釣り 輪投げ等のゲームを楽しんで頂きました。法被や甚平・ 浴衣などを着用して記念撮影を行いました。 目的・趣旨：夏の季節感を味わってもらえるように企画 しました。また夏祭りの雰囲気を感じて頂きました。
8月30日	ひまわり会	9名	12名	小西	ヒマワリをイメージして元気に体操やゲームに参加して 下さっていました。ビンゴ大会も盛り上がりました。 目的・趣旨：ご自身の作品を観ることによって、自信を回復 していただき、認知症進行の防止などを目指しました。
9月9日	お月見会	7名	—	田中	初めての企画としてお月見会をしました。昨日満月でしたね など会話しお昼には月見うどん・おやつには白玉団子を 召し上がって頂きました。 目的・趣旨：お月見により秋を感じて頂きお月見気分を 味わっていただきたいと開催しました。
9月20日	敬老会	11名	10名	小西	日頃の感謝を込めてお祝いさせていただきました。 感謝を込めて手作りカードとお菓子のプレゼントをしました。 とても喜んでくれました。 目的・趣旨：私達の日頃の感謝の気持ちと一日でも 健康を願い 企画としました。
9月30日	畑 収穫祭	8名	—	小西	裏の畑の野菜を皆様に収穫して頂き昼食には その野菜を召し上がって頂きました。 目的・趣旨：ご自分たちで作った野菜を収穫することで 達成感が生まれ季節感を味わって頂くための企画としました。
10月7日	秋の味覚会	9名	—	長田	昼食に栗ご飯やサンマ等の秋の味覚を召し上がって頂き 秋を感じて頂きました。「もう秋だね」と言いながら 美味しそうに召し上がられていました。 目的・趣旨：秋の味覚を感じていただくことで、季節感を 感じていただき、認知症状の緩和につなげるための企画。
10月19日	大運動会	10名	12名	田中	玉入れや借り物競争等をして運動会気分を味わって 頂きました。きゃ〜うあ〜と賑やかな声を出してくれ 盛り上がってくれておられました。 目的・趣旨：運動会を実施し体を動かして楽しんで 頂けるように企画し開催しています。
10月31日	ハッピー ハロウィン会	12名	12名	井上	毎年恒例ハロウィンパーティーを開催しました。 衣装に身をまとい、ご自分の姿をみて笑っておられました。 かぼちゃ料理も大好評でした。 目的・趣旨：現代のイベントなども取り入れ 新しい事を体に取り込んでいく企画提案しました。
11月17日	紅葉狩り	12名	—	田中	去年はコロナ対策として企画を中止しました、紅葉を 今年からは少しずつでも季節感を味わって頂くように 公園内を散策し秋を感じて頂きました。 目的・趣旨：認知症予防として、秋の季節を 感じて頂く為に企画、開催しました。

11月22日	いい夫婦の日	12名	-	小西	初めての企画でしたが、夫婦でのエピソード語って 頂くことが出来、楽しんで頂けました。 目的・趣旨：回想法を取り入れて昔の話をしていただき 認知症予防の為 開催しました。
12月24日	クリスマス会	12名	11名	河田	皆様で色々なゲームをしたり、手作りケーキも職員が作り 召し上がって頂きました。クリスマスの格好をしたご利用者 様はとても可愛かったです。 目的・趣旨：クリスマスの雰囲気や年末を感じて頂き、 又、回想法も取り入れた認知症の進行防止の為実施。
2023年 1月6日	ハッピー ニューイヤー 会	10名	7名	河田	新年をお祝いして、書初めをして頂きました。 お昼からは職員手作りの福笑いをつくり全員で福笑いを しました。初笑いで楽しく過ごされていました。 目的・趣旨：新年の雰囲気を感じて頂き、又「福笑い」 などでの回想法での認知症進行の防止の為実施しました。
1月13日	鏡開き会	11名	8名	井上	15日の鏡開きをお祝いして、「ぜんざい」を皆様で 食べました。「とても甘くて元気がでる！」と大好評でした。 目的・趣旨：季節を味覚で感じていただく企画で、 回想法としての目的もありました。
1月17日	疣水神社参拝 初詣の会	10名	-	田中	去年は職員が神主になりましたが今年は皆さんで お参りすることができました。皆様手を合わせてお詣りを されておられ、生き生きとされておられました。 目的・趣旨：外に出向きお詣りをする事で外の空気にふれ 歩行することで認知症状の緩和に繋がるため企画しました。
2月3日	節分会	12名	-	井上	スタッフが鬼に扮しお手玉を投げて鬼退治をしました。 「鬼は外、福は内」と大きな声を出してくれておられました。 目的・趣旨：行事に参加し季節感を感じて頂くために 企画しています。
2月7日	バレンタイン デー	11名	-	田中	去年はコロナウイルス感染症によるクラスターの為 中止になっていた企画ですが今回は開催することが出来 皆様喜んで頂きました。 目的・趣旨：バレンタインデーの企画をすることでほっこり していただくことが出来るように企画しました。
2月22日	雪まつり会	12名	-	小西	寒い日に石狩鍋を皆様で召し上がられて温かい食事会と させて頂きました。大きい鍋で温かいご飯に 皆様喜ばれて頂きました。 目的・趣旨：季節感を感じて頂き、笑顔溢れる企画と なるように企画し開催しました。
3月3日	ひなまつり会	12名	9名	小西	お内裏様とお雛様のプラカードを作り、写真撮影を 行いました。ひなあられをプレゼントさせていただきました。 目的・趣旨：ひなまつりの雰囲気を感じて頂く為、 また、子育ての頃を回想して頂く為、実施しました。

3月8日	春まで 待てない会	10名	9名	井上	<p>桜の枝を作り、写真撮影を行いました。 春の花を見ては「花はいいね」「きれいだね」と言われておられました。</p> <p>目的・趣旨：季節感を感じて頂き、毎日のメリハリをつけて頂くことで企画させて頂きました。</p>
3月29日	水尾公園 お花見会	10名	10名	河田	<p>今年は桜が早く咲きましたので4月に予定していました花見を3月に変更してお花見をしました。気候もよく晴れた天気になり満開の桜に喜ばれておられました。</p> <p>目的・趣旨：春の暖かさを感じて頂き、歩くことで機能訓練になるために企画しました。</p>

管理部

○職員 入職 松尾涼香(特養)4月1日 林美智子(特養)4月1日 土方伸子(庄栄テ`イ)4月1日
山本ラブリアドール(特養)4月26日 福村円佳(庄栄テ`イ)5月16日 兼本千鶴子
(庄栄テ`イ)6月1日 奥田風歌(庄栄テ`イ)7月14日 寺川マルジェリン(特養)7月19日
高橋美由紀(間接部)9月1日 松久保拓久真(特養)9月16日 大和ウィルマ(特養)
9月21日 中島剛(特養)10月1日 滝野英雄(特養)10月27日 尾関秀敏(庄栄テ`イ)
11月1日 矢吹知子(庄栄テ`イ)11月1日 小野真由美(庄栄テ`イ)12月1日 小原裕洋(特養)
12月9日 川嶋元美(特養)1月16日 保田るり(地域包括)1月16日 山田正雄(庄栄テ`イ)
1月19日 名倉俊志(庄栄テ`イ)2月9日 森谷美海(特養)2月21日 藤盛雅志(特養)
)3月3日 ヌニエスジョナリールナ(特養)3月13日 笹岡章男(特養)3月16日
稲田彩香(特養)3月31日

退職 平石照美(特養)4月21日 小松百合子(特養)4月26日 本田好憲(特養)5月7日 秦絢子
(特養)5月15日 田中千鶴(庄栄テ`イ)6月15日 石井恵美子(庄栄テ`イ)6月15日 森田創施
(特養)7月15日 池本美樹(特養)8月15日 内村総十(特養)8月31日 西真由美(特養)
9月11日 天田利子(庄栄テ`イ)9月15日 高見愛(特養)11月17日 西本和郎(特養)
12月1日 権野竜也(特養)12月15日 宮川直也(特養)12月15日 上杉政雄(特養)
12月15日 新地善一郎(庄栄テ`イ)1月15日 比良山憲治(庄栄テ`イ)1月15日 淵上正利
(特養)1月26日 齊藤泰弘(特養)3月31日 岩切友子(間接部)3月31日 古川綾(地域包括)
3月31日

○戦略会議 令和4年度 第1四半期 令和4年7月15日
第2四半期 令和4年10月21日
第3四半期 令和5年1月20日
決算期 令和5年4月21日

○運営会議 毎月第4火曜日開催

○職員会議 毎月第1火曜日開催

○労働安全衛生委員会 毎月第3火曜日開催

○人事評価会議 6月21日 6月22日 11月22日

○職員確保計画 来期に向かっての職員採用の計画

- 1・専門学校・短大・福祉系高校の求人訪問と実習先の依頼
- 2・ホームページによる求人
- 3・ハローワークによる求人

○ストレスチェック制度実施 7月12・14日 定期健康診断に加え実施

令和4年度研修報告

	月/日	研修内容
平方陽子	6/18	コミュニケーションスキル（専門的相談）の悩みを考える インテークの悩みを考える アセスメントの情報収集の悩みを考える
神野享士	9/16	全国社会福祉法人経営者大会 新たな社会課題への挑戦～ふるさとを支える社会福祉法人～
宮崎由美	9/28	起居関連動作と移乗介助の基本
松尾直美	9/30	褥瘡予防ケアと用具の選び方・使い方
神野享士	10/14	令和4年度協力雇用主セミナー
佐藤尚美	11/2	防災意識を高める
眞田えりか	11/24	デイサービスセンター職員向けレクリエーション研修 「レクリエーション活動でみんな元気！」在宅分科会研修会
佐藤尚美	12/1	多職種連携について（オンライン）
古川綾	8/10～12/6	大阪府主任介護支援専門員更新研修
宮崎由美	1/19.26.27	移動支援従業者養成研修
今井良	1/25	安全運転管理者講習
森山友紹	2/6	社会福祉法人後見専門職員養成研修
増井隆	7/26～3/3	大阪府介護支援専門員更新研修 専門研修過程 1
高木美砂子	3/8	『虐待防止の研修会』～虐待防止、身体拘束等適正化に関する基礎及び事業所に求められる事はなにか～